

Commercial and non-commercial surrogacy practice in Thailand.

タイの商業的・非商業的代理出産

Anonymous Informant

Q. 研究歴や専門など、ご自身のバックグラウンドについて教えてください。

最近シドニー工科大学を卒業した。研究内容はタイにおける代理出産について。公衆衛生の観点からタイとオーストラリアの代理出産関連の規則を比較した。現在、タイの規制の枠組みに沿いながら利他的代理出産モデルをどのように発展させるかということの研究している。

また、クリティカルケアの教育者に関する看護学の研究もしている。

Q. これまでタイに渡航して調査をしましたか？

もともと私の友人の看護師から、違法で施術を行っている代理出産のクリニックがあると聞いて、興味を惹かれ、このことについて研究しようと思った。しかし、COVID-19による国境封鎖で、タイへ行って対面でインタビューできていない。主に電子メールか電話で連絡をとった。公衆衛生関係の団体、合法・違法の不妊クリニックに勤務する看護師、それから代理母に連絡をとった。

Q. 研究者が外国人の場合と母国人の場合では、調査のやりやすさや代理母とのコミュニケーションに違いがありますか？

研究者が外国人か母国人かで違いはあると思う。私の場合、代理出産を行う合法・違法のクリニックで働く看護師の友人を通して簡単にコネクションを築くことができた。数人の代理母に接触してから、雪だるま式にほかの人たちにも接触できた。彼女たちが話すことは完全に秘密で、匿名性が守られ、内容は研究にのみ利用されるということを保証した。この約束が彼女たちの信頼と協力につながった。

国外の研究者はもっと大変な思いをしているようだ。法律はかなり厳格で、軍による規制のためタイはもはや完全に民主的な国とはいえない。だから、タイの人々は代理出産について話すときは慎重にならざるを得ない。問題を起こしたくないから。

もし外国の研究者がこのトピックについて調査したい場合、代理母はおそらくインタビューでは率直に話してくれないだろう。最初の壁は軍の規則、二つ目は言葉の壁、そして三つ目は、タイ人はシャイな面があるため、文化的なものが障害となるだろう。だから、タイ人がインタビューしたほうが信頼を得やすいと思う。

Q. 代理母以外の人にインタビューしましたか？

これまでに代理母以外の人へのインタビューはほとんど成功していない。何人かの看護師や医師と話したことはあるが、彼らはあまりオープンではなかった。だから、その時に得た情報はそれほど役に立たなかった。誰かからあるクリニックが代理出産を行っていると聞いたとしても、直接話を聞こうとすれば電話を切られることもある。

公衆衛生省は限られた情報しかくれなかった。代理出産の数、代理出産に関わ



った人の数など詳細なデータを要求したが、もらえた情報はほんのわずかで、自分の研究には全く役立たなかった。

専門家たちは有益なデータを出し渋ったが、代理母たちやクリニックに勤務している看護師の友人はとても協力的だった。匿名ではあったものの。

私の研究の目的は、タイの代理出産の現実によくの人が気づいてくれること。COVID-19の国境封鎖で違法な代理出産がなくなってくれるのではないかと期待している。

Q. 2015年に施行された代理出産法をどのように評価しますか？

法律をもっと厳しくしたらいいと思う。それは法律として存在はしているが、それほど強制力がない。この分野での私の研究が、専門家たちが法律を改正するきっかけになればよいと思っているが、かなり時間を要するだろう(もしかしたら何十年も)。

今のところ政府が何か変えようと動いている気配はない。今はCOVID-19対策に集中している。COVID-19のお陰でよい面があるとすれば、人身売買、国を越えた代理母の移動や受精卵の移植が減少しただろうということ。

Q. タイのフェミニストグループは、代理出産について何か発言していますか？

フェミニスト団体がこの問題に注目しているかはわからない。

Q. 代理母の自助グループなどがありますか？代理母の権利主張はありますか？

その点についてはわからない。

タイの代理母のほとんどは社会的にも経済的にも低い層出身。彼女たちの目的

の大半はお金なので、権利意識は弱い。彼女たちは医療面の手続きなど、もっと基本的なことを心配している。研究の際、私の質問への彼女たちの回答で分かったことは、彼女たちが気にしていたのは生活費が補填されるかどうかということ。彼女たちの現在の仕事では十分な賃金が得られないため、収入の足しとして代理出産に参加していたから。

Q. 占いで代理母の出産日を決めたり、約束した金額を支払わなかったり、代理母を軟禁したりする依頼者もいると聞きました。このようなことは今でも起こる可能性があるでしょうか。

はっきりとはわからないが、そのようなことは今でも続いているのではないかと思う。

これは、金持ちの依頼者と、サービスを提供する代理母の間で起こる力の不均衡から来ている。代理母は依頼者からのお金が必要。だから依頼者が大きな力を持ち、代理母は彼らの希望に沿うという傾向がある。

Q. 代理母は、代理出産についてどのような見方をしていますか？

代理母たちは、不妊の家族が子どもを持つのを助けているので、自分たちの行為を善いことだと思っている。つまり、それをタンブンとみなしている。しかし、依頼者からは金銭を得ているので、win-winだとも思っている。彼女たちは法律に違反するのを恐れているので、妊娠中は自己隔離している。彼女たちは社会的スティグマには関心が薄い。そして、代理出産から自身の感情を切り離すことをうまくやっている。赤ちゃんは自分の



ものではないということを理解している。

Q. この法律によって、タイ人の依頼者は、経済能力に関係なく、代理出産を依頼できるようになったと言えますか？

合法の非商業的代理出産についてデータを集めようとしたが、実際に関わっている人は多くないみたいだ。だから、なんともいえない。一方で、違法の商業的代理出産は、海外からの需要があり、活発に行われている。

Q. タイの社会事情から考えて、親族が代理母になる可能性はどのくらいありますか？プレッシャーはあると思いますか？

恐らくは、親族の中から適当な人物を見つけるのはそれほど難しくはないと思う。しかし、すすんで協力してくれるわけではないと思う。たとえ、それが善い行いだと思っていても、タイ社会には今でも夫がいない女性が妊娠するというところにある程度スティグマがある。

都会と田舎でそれほどの違いはない。都会と田舎では信仰なども似通っているから。

Q. 親族に代理母になってもらった場合、その後の関係はどうなるのでしょうか？子供には事実を話しますか？

その場合、伝えているのではないかとと思うが、確証はない。

Q. 養子の場合に出自を知る権利は認められていますか？代理出産の場合はどうでしょうか？

養子の場合、どうかはわからない。代理出産による子どもについては、権利が認められる可能性は非常に低いと思う。

Q. タイでは、両親から娘に対する経済的支援への期待が強いですか？それは、商業的代理出産に参加するプレッシャーになっていますか？

一般的にタイの文化では、娘には親に対して責任があると見られている。それが代理母になるプレッシャーになっていると思う。

Q. タイで、2015年以降に行われた代理出産で、法的トラブルにまで発展した例はありますか？

スペイン人とアメリカ人のゲイカップルが依頼者になった Carmen ちゃんの事件があった¹。代理母は赤ちゃんを渡さないと主張したが、カップルは裁判によって赤ちゃんを取り戻した。

そのほかにもいくつかの事件があったが、それらは、たいていは、国境を越えた代理出産に関するものだ。例えば、タイ人の代理母が人身売買の嫌疑をかけられ、ラオスやカンボジアで立ち往生したこともある。

Q. 非商業的代理出産のケースで、金銭のやり取りはどのように行われていますか？

現在の法律では、代理母には一銭も支払われない。代理母は治療費や、そのほかの出産に関連する費用は払い戻される。経費の補償について、英国の枠組み

¹ 2015年に代理出産法が施行される前に行われたケースで、代理母は依頼者がゲイカップルであると知らされていなかったと主張し、生まれた子どもの将来を心配して引き渡しを拒んだ。Gay couple win custody battle against Thai surrogate mother. BBC News (26 April 2016).



がタイの法律に適用されれば有益だと思っている。

違法の商業的代理出産では、代理母にはおよそ 300,000 バーツが支払われる。複数胚の移植や、HIV に感染した胚を移植することなどに同意すれば、報酬はもっと増える。

Q. タイでは今も外国人が商業的代理出産を依頼していると聞きます。逮捕された例はありますか?

法律によれば、違反した場合は禁固刑と罰金が課せられる。今のところ、外国人が罰せられたというのは聞いたことがない。

タイ人の男性がラオスから胚を持ち込もうとして逮捕され罰せられたことがある。しかし、詳細な内容までは知らない。一部のクリニックは法律違反のために閉鎖させられたが、名前を変えただけで再び営業している。このようにして、違法の代理出産は続いている。

Q. タイでは女性が小さなビジネスをやっている姿をよく見かけますが、代理母は、家でできる仕事として魅力があるでしょうか?

まず、経済的な面で魅力的であること。長期間生活できるだけの十分な報酬を得られる。第二に、家に居られることがある。しかし、妊娠中は一人になることを選ぶ人もいるので、やはりお金が一番の理由。

代理母の友人が紹介し、不妊治療のクリニックから女性にアプローチしてくることがよくある。たいてい看護師がアプローチしてくる。逆のケースもある。法律ができたので、今はネット上で探したり、ソーシャルメディアを通じた広告などはできない。

Q. タイで行われている非商業的代理出産には代理母にとってどのようなリスクがありますか。

非商業的代理出産では、健康面からの深刻なリスクはないが、心理面でのリスクがある。

違法の商業的代理出産では健康面でのリスクが大きい。金銭的なインセンティブとともに、複数胚移植などを勧められ、健康上のリスクが大きくなる。

商業的代理出産の場合、胚移植はタイ国内ではできないので、このプロセスを行うために代理母たちはラオスへ行く。サポートはほとんどない。家族ではなく不妊クリニックの看護師が同行しているようだ。

違法の商業的代理出産をする場合、秘密なので誰にも話すことはできない。産科病院などで医師に診てもらう際、子どもは自分の子だと言う。病院は調査する権利がないため、彼女たちはそれ以上質問されることはなく通常の診察を受けることができる。

妊娠期間中、隔離されることを選ぶ代理母もいる。大抵は田舎に住んでいる女性で、妊娠を隠すために都会に出てきて、その間、家族とはビデオ通話をする(下半身は見えない)。

家族から離れる必要のない女性もいる。家族はすべてわかっていて、代理出産を収入源と見なしているから。しかし、近所の住民には知られないように家から出ないようにしている。親しい友人にも話さない。

Q. 調査によってわかったことを教えてくださいませんか。

公衆衛生の視点から見て、法律には穴がある。弱い立場の女性が搾取されることを防ぐために対策が必要だ。タイで代理母になる女性はお金のためにやっ



る。政府は彼女たちを支援し、違法な代理出産に関わることがないようにすべき。代理出産以外の方法で家族を支えることができるようにするべきだと思う。

タイ人の女性は善い行いをしたがっている。その際は、きちんと保護される必要がある。ただ、お金が彼女たちの動機となっているのが現状。

(2021年8月)